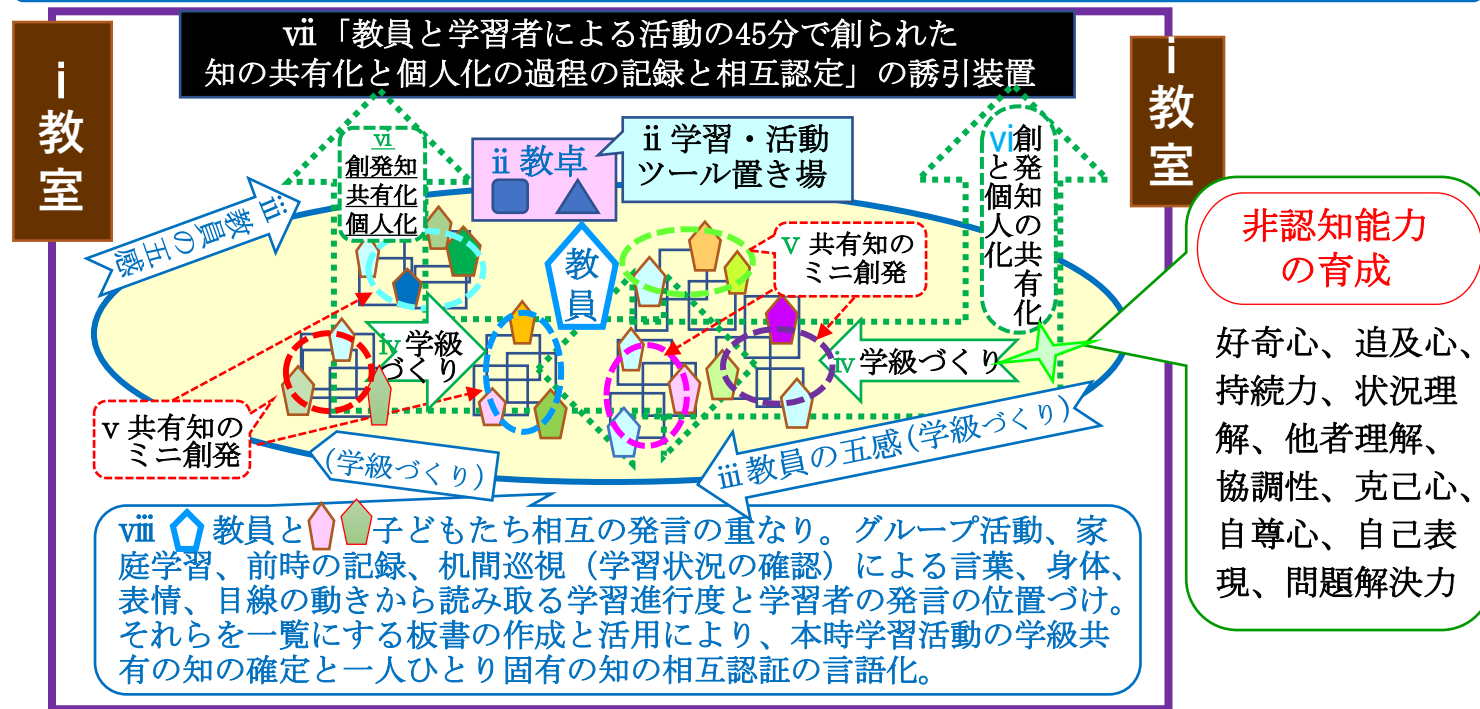


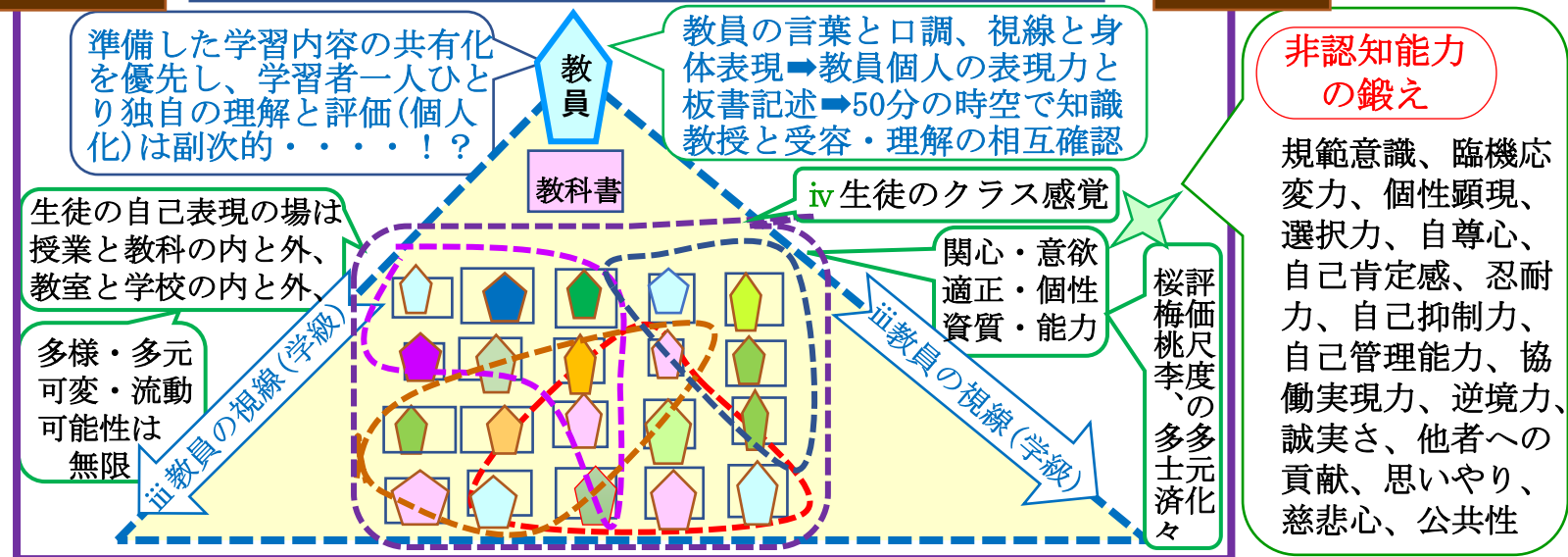
図1 公立小学校の学級づくりを基礎にした教育と学習を活動で結ぶリアル授業モデルA



i 教室

i

i 教室



iv ①教える知識・技能と
学び方、話し方、読み取り
方、伝え方、聞き取り方な
ど学習過程・課程のテキス
ト化とパッケージ化が必要

②機器上の記録の共有化
は可能だが個々人の創発
知の共有化確認は困難

v タブレット
v PC

ii 仮想学級

i 仮想教室

ii 仮想学級

④ 形式は
一切授業と
グループワーク、
実質は二者
関係組合せ

iii ブレーク
アウト機能

サイ
スパー
ース

iv ①教える知識・技能
のパッケージの明確化

iv ①発話・口調と文字
中心、視線と身体表現は
補助的→教師を演ずる

v PC

ii 仮想学級

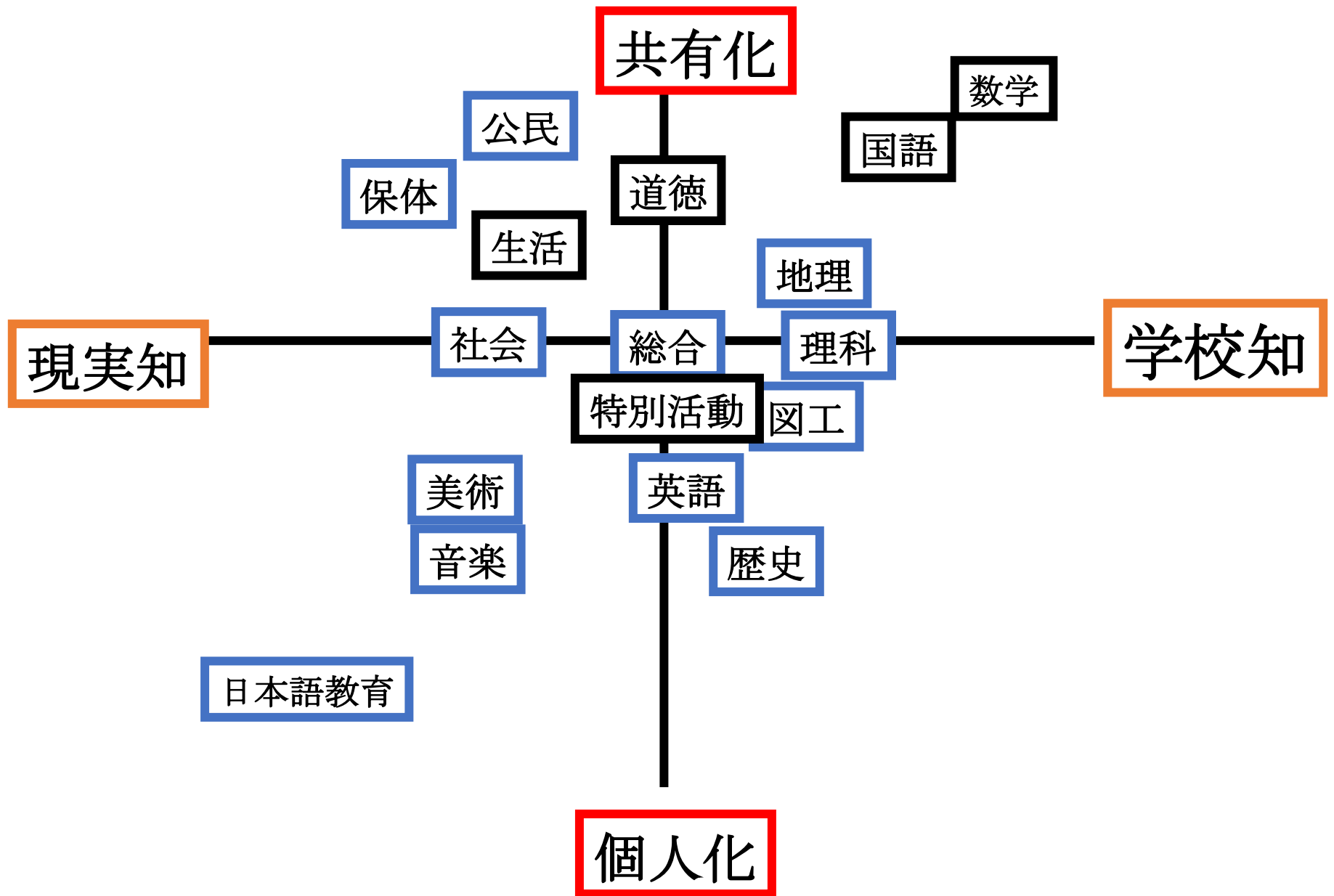
iii ブレーク
アウト機能

仮想
グループ

②教員と学習者相互との情報交換の進行により
学習の過程と結果の確認作業の個人化は可能だが、
③共有知の創造に至るには、教員と学習者双方に
デジタル機器の操作技術の高度化が必要

②教員と学習者間のチャット(文字情報)での
情報交換は共有知ではなく個人知の形成進化→
③デジタル機器による知のパッケージの個人内化





評定(相對評価)優先

数学

国語

地理

歴史

保体

公民

理科

英語

社会

音楽

図工

美術

道徳

総合

生活

特別活動

日本語教育

個人内(絶対)評価優先

到達度
評価困難

到達度
評価可能

